

科目名	産業衛生学特講	担当者	イズミ 泉 リュウタロウ 龍太郎	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現在の労働環境、または生活環境と健康の関連において、検討を要すると考えられる事項を取り上げ、その事項に対する科学的な分析を行った上で、限られたリソースの範囲内で現実的に実施可能な対応策を見出す方法論を身に付ける。その際、現時点での科学的知見を踏まえ、利用可能な技術を用い、また法制面を含めた社会的動向も考慮することを学修する。理想的には、今後5～10年程度の動向を見据えた上での対応策を考察することが望まれる。		
到達目標	上記の目的に従い、産業衛生学上の検討を要すると考えられる事項に対して、その問題点を整理し、最新の知見を基に、その課題への対応策を見出す方法論を身に付ける。		
学修方法	レポート課題に沿って、テキストや参考図書を基に、自分自身で産業衛生学の分野において検討事項となっていると考えられる題材を取り上げ、その題材に関する必要な文献の検索を行い、それに対する考え方をレポートとしてまとめる。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)は8月末を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出する。 後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)は12月中旬を目処に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談することが望ましい。いずれの課題も2017年1月上旬までに最終稿を提出する。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート内容	75%	レポートの内容に関し、取り上げた題材の適切性、考え方の科学性・妥当性、最新の知見の反映、自分自身の専門分野との関連性等を評価する。
	レポート構成	25%	レポートの構成や表現に関し、全体の記載方法、図・表の活用方法、引用文献の記載方法等を評価する。
履修者への要望	<ol style="list-style-type: none"> 1) レポートを作成する前に、取り上げる題材やレポートの構成（目次案等）について、メール等で連絡相談して下さい。 2) 題材の選択は自由ですが、発想が面白い、ユニークな題材を歓迎します。 3) レポートの構成については、取り上げた題材の簡潔なレビューと同時に、何か一点、最新の知見を反映した上で、自分自身の考察を加えることを基本とします。 4) レポートは、簡潔明瞭にまとめることを心掛けて下さい。 5) 教材・参考図書を全て読み込む必要はありません。むしろ題材に関連した文献は自分で検索して下さい。 6) 引用文献については、各々の研究分野の形式に従って、適切に記載して下さい。 <p>注：本レポートは開示しませんが、個人情報や企業秘密に関わる事項を記載する必要はありません。または適当にフィクション化しても結構です。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 中央労働災害防止協会（編） 教材名： 『労働衛生のしおり(平成 27 年度版)』（中央労働災害防止協会，2015 年） ISBN 978-4-8059-1630-8 600 円+税</p> <p>産業保健衛生活動のガイドブックとして，法令の改正等を踏まえ，毎年改訂されており，産業保健衛生活動に従事する際は，最も準拠すべき書。毎年 8 月頃，その年度の版が出版されるため，テキストとしては平成 28 年度版を用いても可。</p>
参考図書	<p>(1)小松原明哲，辛島光彦『マネジメント人間工学』（朝倉書店，2008 年）ISBN 978-4-254-27540-7 3,400 円+税 (2)神代雅晴編著『職場改善－産業保健人間工学の知恵と妙技』（日科技連，2008 年）ISBN 978-4-8171-9259-2 3,400 円+税</p>
履修上のポイント	<p>職場・生活環境の問題点とその対策について考察する。 参考図書は，あくまで一つの参考資料に過ぎず，必要な文献は自分で調べること。法律や規則も度々改正されるため，最近の状況を反映すること。</p>
レポート課題 1	<p>レポート課題：現在の職場，地域社会，あるいは居住環境について，その物理化学的な側面に注目し，検討が必要と考えられる課題を取り上げ，その対策について考察しなさい（例：温熱，騒音，作業環境[腰痛対策，危険作業を含む]，化学物質，喫煙対策，放射線）。 留意点：なるべく自分自身の経験を基にすること。</p>
レポート課題 2	<p>レポート課題：現在の職場，地域社会，あるいは居住環境について，メンタルヘルスケア，ワーク・ライフバランス，シフト勤務等の側面に注目し，検討が必要と考えられる課題を取り上げ，その対策について考察しなさい。 留意点：勤務先の環境を取り上げる場合は，働き方に関する職場のルール(就業規則など各種規則，規程)を参照すること。なるべく自分自身の経験を基にすること。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： (1)石井正著 教材名： 『東日本大震災 石巻災害医療の全記録』（講談社ブルーバックス，2012 年） ISBN 978-4-06-257758-8 940 円+税</p> <p>著者名： (2)放射線医学総合研究所編 教材名： 『医学教育における被ばく医療関係の教育・学習のための参考資料』（2012 年） http://www.nirs.go.jp/information/press/2012/04_06.shtml</p> <p>(1)は事前に災害医療体制を立ち上げておいたことが，東日本大震災で，現実にとどのように機能したかを記述したテキスト。 (2)は放射線医学総合研究所がまとめた被ばく医療に関するテキスト。</p>
参考図書	<p>(1)青山喬(編)『放射線基礎医学(第 12 版)』（金芳堂，2013 年）ISBN 978-4-7653-1559-3 5,900 円+税 (2)復興庁(編)『放射線リスクに関する基礎的情報』 http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-1/20140218_basic_information_all.pdf</p>
履修上のポイント	<p>リスクに対し，職場として，あるいは日常生活上，どのような備えを考えておかなければならないかを学修する。課題 2 では特に物理的因子としての放射線を取り上げ，日常生活上で遭遇する放射線量と，そのリスクについて定量的な評価を考察する。</p>
レポート課題 1	<p>レポート課題：職場，あるいは日常生活において考えられる非日常的な緊急事態を一つ取り上げ，それに対する対応策を検討すること。既にマニュアルが作成されている場合は，それを引用すると同時に，そのマニュアルの限界点と，それへの対応策も考察に含めること。</p>
レポート課題 2	<p>レポート課題：1 年間の日常生活で接する放射線量とその種類を記述すること。その場合，年 1 回以上の医療放射線検査の受診，航空機を利用した海外渡航，及び天然温泉での湯治を含めて考慮すること。同時に交通事故に遭遇するリスク，または生活習慣(喫煙等)の健康上へのリスクを考察し，それらのリスクの比較を行うこと。</p>